

Book List - 沖芸の先生による、今読むべきこの10冊 - vol.19

書によるピアノ芸術の世界

～ 大音楽家の心の奥に触れる 5 冊 ～



762.347/L69

師としてのリスト

弟子ゲレリヒが伝える素顔のマスタークラス

ゲレリヒ著 ヴィルヘルム・イエーガー編
内藤晃監修・訳 阿部貴史共訳
音楽之友社 2021年

本書は世紀の大音楽家であった F. リストが晩年にあたる時期に行っていたマスタークラス（ピアノレッスン）の様子を、弟子であり彼の秘書も行っていたアウグスト・ゲレリヒがメモ等で記録に残し、後にヴィルヘルム・イエーガーがまとめたものです。リストのレッスンを誰がどの作品をどの様に受けたかが詳細に書かれており、譜例も多く見られます。リストの音楽性や、時に人間性も垣間見られる大変貴重な資料で、さらにリストを深く知ることのできる素晴らしい書となっています。

県立芸大の先生が選ぶ
おすすめ本！

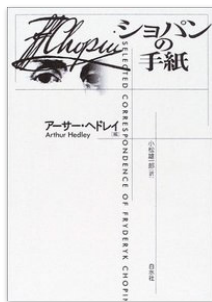
選者

沖縄県立芸術大学
音楽学部音楽表現専攻
ピアノコース 教授

小杉 裕一

愛知県立芸術大学、大学院を共に
首席で卒業。ハンガリー国立リス
ト音楽院（当時）にてさらに研鑽
を積む。国内外のコンクールで入
賞を果たし、リストのスペシャリ
ストとして活躍している。

ショパンの手紙

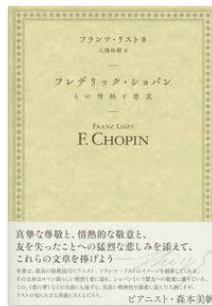


762.349/C53

ショパン著 アーサー・ヘドレイ編
小松雄一郎訳
白水社 2003年

この書は、ピアノの詩人として有名な F. ショパンが生涯に渡って書き残した文章（手紙）を、精査された編集により「ショパンの全生涯の動きを手紙で大体一貫した物語として読めるように」（本書より）まとめられた書となっています。やや長大ではありますが、ショパンをより深く、多角的に知ることができる大変貴重な書です。

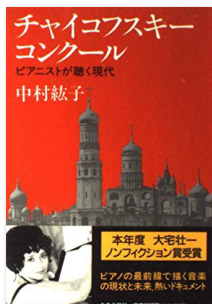
フレデリック・ショパン その情熱と悲哀



762.349/C53

フランツ・リスト著 八隅裕樹訳
彩流社 2021年

この本は、ショパンの音楽性や人格について、同世代の大音楽家であったリストが綴った大変興味深いものです。ショパンへの多大なる尊敬と一見自身とは反する音楽性を魅せる彼の作品への冷静な分析も盛り込まれた、洞察力に長けた書となっています。ショパンについて記すことでリストの崇高で真摯な音楽への姿勢が見られます。

チャイコフスキー・コンクール
ピアニストが聴く現代

760.7/N37

中村紘子
中央公論社 1988年

本書は、ピアニストの中村紘子氏が世界的な大コンクールであるチャイコフスキーコンクールに審査員として参加し、そこで見聞した内容を記したものです。コンクールの悲喜交々や当時のロシアの様子も含まれ、国際コンクールというものを複数の視点から描いています。

どこか古典派（クラシック）



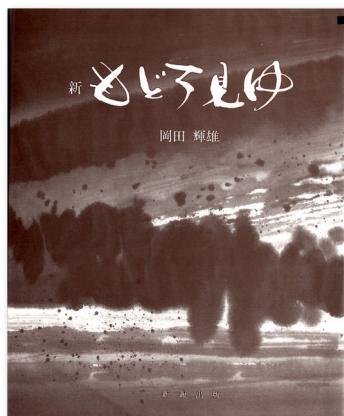
914.6/N37

中村紘子
中央公論新社 1999年

著者の中村紘子さんは日本のピアニストのパイオニア的存在で、世にピアニストという「人種」が存在することを広く世間に広めた方です。本書は彼女が自身の体験と、垣間見た多くの事柄をとっても面白おかしく綴ったもので、堅苦しいピアニストへの印象が改まる可能性を秘めた一冊です。

Book List - 沖芸の先生による、今読むべきこの10冊 - vol.19

芸にかける うちなーんちゅ魂



K76/O38

新もどろ見ゆ

岡田輝雄

新報出版 1991年

沖縄芸能の風雲児とも称された宮城美能留（1935～1987）。沖縄をこよなく愛し、世界を舞台に沖縄の伝統芸能を発信するとともに、組踊や琉球舞踊の質の向上に情熱を傾けた稀代の舞踊家です。わずか52年の生涯を駆け抜け、今なお伝説的な存在として語り継がれています。闘病生活における沖縄芸能の未来への沸々たる思いが綴られた熱い文章と、別冊の写真集「宮城美能留 炎の舞踊家」からも、ほとばしる情熱を感じずにはいられないでしょう。

県立芸大の先生が選ぶ
おすすめ本！

選者

沖縄県立芸術大学
音楽学部琉球芸能専攻
琉球舞踊組踊コース准教授

嘉数 道彦

幼少より、初代宮城能造、能里に琉球舞踊を師事。沖縄県立芸術大学大学院修了。2013～22年3月まで国立劇場おきなわ芸術監督。琉球芸能の継承・普及に努めている。

沖縄芝居五〇年



K77/Ma36

真喜志康忠

新報出版 1983年

沖縄の人々の娯楽、大衆演劇として育まれてきた「沖縄芝居」。戦前・戦後を通し、芝居とともに歩んできた役者・真喜志康忠（1923～2011）の体験記です。100年に1人の名優と呼ばれ、劇作・演出・劇団経営に至るまで、舞台にかける深い思いが切々と綴られた一冊です。

ぜんぶ芸のはなし 名人上手十八話



OK77/O71

織田紘二 中嶋典夫

淡交社 2005年

明治生まれ、大正育ち、昭和期に活躍した舞台各界の名人18人への貴重なインタビューが満載の一冊です。歌舞伎、能楽、文楽、京舞、新派など日本の伝統芸能の名手、作家や大道具師など裏方の第一人者に加え、琉球芸能界からは初代宮城能造が取り上げられています。

ぼくが目ざわり耳ざわり



K94/F75

普久原恒勇

琉球新報社 2019年

「芭蕉布」や「ゆうなの花」など、「普久原メロディー」と呼ばれる名曲を生み出した沖縄を代表する作曲家・普久原恒勇氏によるエッセイ集です。沖縄の風習や芸能、日常をさまざまな角度から描き、時に風刺を効かせながらウチナーンチュの感性を呼び起こしてくれます。

にちにいまし ちょっといい明日をつくる琉球料理と沖縄の言葉



K59/Y31

山本彩香

文藝春秋 2020年

沖縄の食文化や食生活から、ウチナーンチュならではの思想や価値観が見えてきます。美味しい琉球料理の話をはじめ、沖縄の「黄金言葉（クガニクトゥバ）」、そして人生を豊かに生きる術がたっぷりと盛り込まれており、一気にワタプー（お腹いっぱい）になること間違いなしです。